

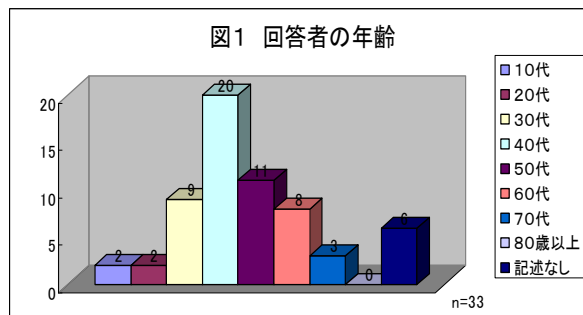
1: 回答者は多世代、多様な地域の犬の飼い主たち

アンケート回答者は33名である。内訳は男性6名(29%)、女性15名(71%)、他14名は記入なく不明であった。

年齢の内訳は、10代1名、20代1名、30代5名、40代11名、50代6名、60代5名、70代2名、80歳以上0名(他3名は記入なし)と多世代であった(図1)。

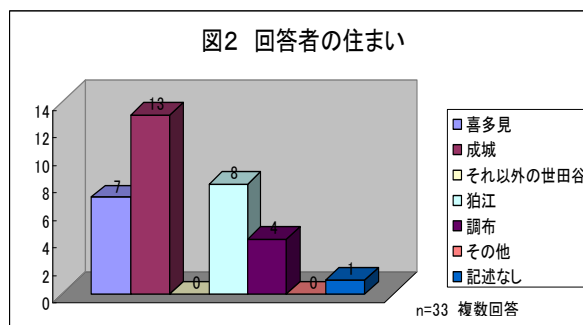
住まいは、「喜多見」7名、「成城」13名、「それ以外(喜多見・成城)の世田谷区」0名、「狛江」8名、「調布」4名(他1名は記入無し)と多様であった(図2)。

回答者のうち、「犬を飼っている」とした人は30名(他3名は記入なし)で、体験ドッグエリアへの参加については、「参加した」とした人が24名、「見学のみ」とした人が4名(他5名は記入なし)であった。



2: 【体験ドッグエリアのがわ】を知ったのは、ポスターやチラシ、通りがかりで参加した人もある

回答は複数回答である。「通りがかり」とした人が8名、「ポスター」11名、「チラシ」10名、口コミ5名、「メルマガ」7名であった。「口コミ」の中には、「散歩中に他の飼い主が話しているのを聞いて」とした方もあった(図3)。

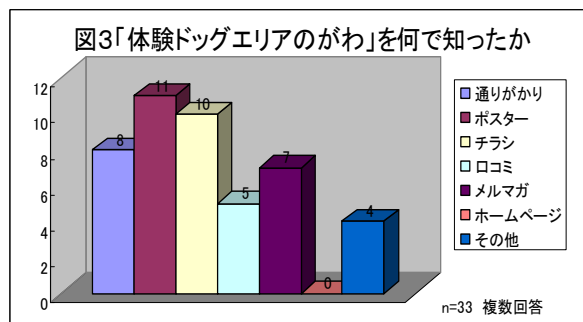


3: 【体験ドッグエリアのがわ】の試み、94%の人が「賛成」、理由は、「他の犬や飼い主との交流機会となる」など

このような試みを行なうことについて、「賛成」とした人が31名、「なんともいえない」とした人は2名であった。

回答の理由は、「なんともいえない」とした方2名が、それぞれ「マナーを守らない人がいるので、常設は難しい」、「犬にとっては良いが人間は？」とした。

一方、「賛成」とした方は、「他の犬や飼い主との交流機会となる」3名、「(犬の)運動不足の解消として・自由に運動できる」2名、「ドッグランが欲しい・近所にないので」、「犬だけではなく飼い主のマナー向上になる」、「楽しい」、「犬嫌いな人にも迷惑をかけず、犬も遊べる」各1名などを指摘した。



4: 今後、「毎日使える地域の常設ドッグラン」が欲しい、「現在の場所」または、「きたみふれあいひろばの一角」など野川周辺に・・・

今後の実施については、「毎日使える地域の常設ドッグランをつくって欲しい」とした人が21名、「現在の場所で、毎週末など頻回に行なってほしい」とした人は11名、「現在の場所で、2~3ヶ月に一度から半年に一度程度開かれればよい」とした人が7名、「場所を変えて、時々行なってほしい」とした人は2名、「必要ない」とした人は0名であった。

実施場所としては、「現在『体験ドッグエリア』が行なわれている場所」9名、「野川沿いの遊歩道の中でも別の場所」6名、「野川緑地広場の一角」6名、「きたみふれあい広場の一角」7名、「次太夫堀公園の一角」1名、「成城・喜多見の空き地」1名、「その他(喜多見駅前広場)」を1名が挙げた。

自由記載には、「もっと情報を広めて欲しい」、「常設が実現すれば喜多見の町興しに繋がる」などの記載があった。

